

東京民医連 高校生・予備校生向け医療講座 『医師と高校生がつくるCase Conference』 開催しました。



講師：田高 匡孝 医師
(東葛病院研修医2年目)

2026年6月7日(日)東京民医連(豊島区・JR山手線大塚駅)で高校生・予備校生向け医療講座『医師と高校生がつくるCase Conference』を行いました。東葛病院研修医2年目田高匡孝先生が、研修期間で対応した症例をもとに、腎不全の患者さん、の生活背景や価値観に目を向け、病気を治すだけでなく”その人らしい生き方に寄り添う医療”について講演をしてくださいました。医学生も5名参加し、ディスカッションや交流会で医学部のことも紹介してくれました。

【田高先生よりメッセージ】

患者さんのNarrative(物語)からその人の置かれている状況や目指すべき方向性を探し、単に疾患や余命だけでなく、その人の人生全体を診ることをやっていきたい。そのためにはNarrative(物語)を知る必要があって、知るとさらなる問題も見えてきます。ということだけでも今日は覚えてもらえたらいいかなと思います。今日はありがとうございました。



高校生25名。医学生5名が
参加しました。

【参加した高校生から寄せられた感想】

「医者の仕事は患者さんのQOLを上げること」という言葉は自分にとって新しい視点でしたが、とても的を得ていると感じ医療という仕事を携わりたいという憧れが増しました。多様な意見を聞いて、自分もいつもより柔軟な考え方が出来て楽しかった。普段医学生と関わることは少なく、誰に聞けば良いのかも分からなかったので、とても有意義な時間でした。(高校1年生)

今日の講演を聞いて、自分も患者さんの物語を考えて接することができるような医師になりたいと思った。初対面で不安でしたが、ディスカッションを通して違った角度からの意見が聞けて良い機会となった。

実際に医学生の方から話を聞いて、将来のイメージが湧き、とても有意義な時間になった。医師体験に参加して実際の病院の様子も見てみたいと思った。また、低学年のうちから病院見学に行き、実習ができるという奨学金制度は魅力だと感じた。(高校2年生)

講師の先生の第一印象として凄く明るく温かいという印象があった。医者は医学的知識だけでなく、コミュニケーション能力や患者を診る姿勢が大事なんだと感じた。QOLという言葉がこの医療講座で出てくるとは正直思わなく、良い意味で驚きがあった。ディスカッションでは皆さんの意見が濃くて面白く、治療を行う上での大切なことを一つ一つ理由をつけて発表していくのが凄く楽しかった。

医学生の方との交流では、自分たちの意見や不安なことに肯定してくださり嬉しかった。奨学生活動では、大学ではできない、知れないものについて触れることが出来るという所に魅力を感じた。水俣病を学びに行く熊本合宿なども学びが深められて楽しそう。(高校3年生)

お問い合わせ

東京勤労者医療会 代々木病院医局医学生室
担当：遠藤
東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
☎03-3404-7680
✉ yo_igakusei@tokyo-kinikai.com

代々木病院・東葛病院医学生室
LINE公式アカウント



学習会や医師体験、
模擬面接のお知らせをしています。